



2020年7月15日

各位

会社名 株式会社アイキューブドシステムズ
 代表者名 代表取締役社長兼CEO 佐々木 勉
 (コード番号:4495 東証マザーズ)
 問合せ先 取締役兼CFO 有森 正和
 (TEL. 092-552-4358)

東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、2020年7月15日に東京証券取引所マザーズに上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、2020年6月期(2019年7月1日～2020年6月30日)における当社の業績予想は、次のとおりであり、また、最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

【個別】

(単位：百万円、%)

項目	2020年6月期 (予想)			2020年6月期 第3四半期累計期間 (実績)		2019年6月期 (実績)	
	対売上高 比率	対前期 増減率		対売上高 比率		対売上高 比率	
売上高	1,641	100.0	17.3	1,198	100.0	1,399	100.0
営業利益	405	24.7	61.6	364	30.4	250	17.9
経常利益	398	24.3	61.0	357	29.8	247	17.7
当期(四半期)純利益	330	20.1	49.6	311	26.0	221	15.8
1株当たり当期 (四半期)純利益	65円99銭			62円23銭		36円64銭	
1株当たり配当金	0円00銭			—		0円00銭	

- (注) 1. 当社は連結財務諸表を作成しておりません。
2. 当社は、2019年12月20日付で普通株式1株につき10株の株式分割を行っております。上記では2019年6月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期(四半期)純利益を算出しております。
3. 2019年6月期(実績)、2020年6月期第3四半期累計期間(実績)及び2020年6月期(予想)の1株当たり当期(四半期)純利益は期中平均発行済株式数により算出しております。
4. 2020年6月期(予想)の数値は、2019年7月から2020年4月までの実績値及び2020年5月以降の予想値に基づいて算出しております。

【2020年6月期業績予想の前提条件】

1. 当社全体の見通し

当社は、「イノベーション（i）を3乗（Cube）する」という思いを社名に冠し、「ITをもっと身近に」をミッションに、最良のテクノロジーと最高のエンジニアリングにより創り出すサービスが企業活動に革新をもたらし、人々の生活がより豊かになるよう、挑戦し続けております。

当社を取り巻く事業環境は、インターネットを活用した様々な機器、クラウドサービスやビッグデータ、IoT、AIなどの技術革新により登場した新たな情報通信サービスを通じて、人々の生活に幅広い変化が起きています。技術の進歩により生活の利便性が向上した一方で、高度化、複雑化するサイバー攻撃に対するセキュリティ強化の必要性は一層高まっており、情報通信におけるモバイル管理の役割は、より重要となり、世界的な広がりを見せています。

このような市場環境の中、当社は2010年度から提供を開始した、モバイル端末管理サービス「CLOMO MDM」及びモバイル端末向けアプリサービス「CLOMO SECURED APPs」を事業の軸として、B to BのSaaSビジネスを提供しております。これまで、主に携帯電話販売会社や携帯電話販売代理店への販売網の営業強化を進めており、2020年3月31日時点で、契約企業数は2,420社（2019年3月31日と比較して36.9%増）となり、契約ライセンス数は前期比31.0%増加しております。

（注）1. 契約ライセンス数：当社サービスの使用許諾契約しているライセンスの数

当社が属するEMM（MDM）の市場はスマートフォンのビジネス利用の増加により成長を遂げており、当社も取引企業数・ライセンス数も増加してきております。また、従来型携帯電話の販売終了や医療機関で多く利用されているPHSのサービス終了により、スマートデバイスの増加が見込まれ、「CLOMO MDM」及び「CLOMO SECURED APPs」の契約企業数、契約ライセンス数の更なる増加が予想されます。

このような状況の下、2020年6月期は、売上高1,641百万円（前期比17.3%増）、営業利益405百万円（同61.6%増）、経常利益398百万円（同61.0%増）、当期純利益330百万円（同49.6%増）を見込んでおります。

なお、2020年4月7日に7都府県、同年4月16日には全ての都道府県を対象に、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく、緊急事態宣言が出されました。

しかし、当社では新たなテレワークの導入・拡大を目的としたお問い合わせが増加しており、業績は予定通りの進捗を継続しております。

テレワーク等の勤務形態は、国が進める「働き方改革」の一環とも言え、新型コロナウイルスの感染が収束した後も、当社をはじめとするモバイル機器管理システムの普及が継続するものと、当社では認識しております。

2. 項目別の見通し

(売上高)

当社の主要サービス「CLOMO MDM」及び「CLOMO SECURED APPs」は、サブスクリプション型のものであり、サービスの提供開始後は契約更新時に解約されない限り継続的に定額課金として売上高が計上される性質があります。

予算策定時においては、売上高を既存契約と新規契約に分けて算出しております。

既存契約分の売上高は、前年度末時点の既契約による収益見込額に、前年度の追加ライセンス増加率に基づき算出した既取引のある法人に対するライセンス追加契約数と、過去2期間の単価下落実績を勘案して算出した想定単価を乗じた収益見込額を加算し、解約リスクのある案件や前年の解約率（前期の解約実績ライセンスを前期既存契約ライセンスで除して算出）等をもとに算出した解約額を差し引き、既存契約分の予想売上高としております。

新規契約分の売上高は、当社の代理店であり、エンドユーザーへ販売を行う携帯電話販売会社等からのヒアリングに基づき当社製品の販売施策を計画し、施策別に新規契約数、単価、売上高の見込みを設定しております。

具体的には、2020年6月末での契約ライセンス数を、前期比26.7%増と予想しております。

以上の結果、2020年6月期の売上高は1,641百万円（前期比17.3%増）を見込んでおります。

当第3四半期累計期間の業績進捗につきましては、既存取引先の追加ライセンスの受注が順調に推移したこと及び新規契約を計画よりも前倒しで獲得できたことも影響し、売上高は1,198百万円となりました。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響により3月中旬より対面での営業活動を当社及び一部代理店で自粛していますが、当社の事業構造上、当期の収益の大部分は既存のご契約者様から頂いている利用料により構成されていることと、新規あるいは追加の契約については、基本的には非対面で当社サービスの導入手続きを進めることができるため、4月7日及び4月16日に発表となった緊急事態宣言後も営業自粛による当社業績に与える影響は限定的なものとなっております。

(売上原価、売上総利益)

主な売上原価は、「CLOMO MDM」及び「CLOMO SECURED APPs」の運用に関わる人件費、自社製作ソフトウェアの減価償却費、及びサービスを提供する際のクラウドサーバー利用料等から構成されており、開発エンジニアの人員計画と過去実績に基づくシステム基盤費用により策定しております。なお、新たな技術を取り入れることによりシステム基盤の効率化によるコスト削減効果の予想値も反映しております。

具体的には、主に自社製作ソフトウェアのリリース数が増加することにより、自社製作ソ

ソフトウェアの減価償却費が前期比 31.0%減少するとともに、受託事業サービスの一部終了によって、当該サービスにおいて利用しているサーバー利用料が前期比 31.7%減少することにより、売上原価が減少する見込みです。

以上の結果、2020 年 6 月期の売上原価は 344 百万円（前期比 18.5%減）、売上総利益は 1,296 百万円（同 32.8%増）、売上総利益率は 79.0%を見込んでおります。

なお、当社のサービスは、顧客の増加や減少により売上原価が直接影響を受けるビジネスモデルではなく、社内環境についても、従来よりテレワークが可能な体制となっております。このため、新型コロナウイルス感染症対策により追加で必要となるコストも現時点ではありません。

（販売費および一般管理費、営業利益）

販売費および一般管理費は、主に人件費、広告宣伝費及び通信費で構成されております。人件費はソフトウェアエンジニアを中心に人員数が前期比 19.6%増加を見込んでおり、採用計画に想定給与を勘案し策定しております。

広告宣伝費は、イベント協賛やセミナー開催費用、宣伝用の動画作成やホームページの改修費用を見込んで策定しており、前期比 265.5%増加を計画しております。

通信費は IT 関連費用を積み上げて策定しており、ソフトウェアの利用料の増加から、前期比 44.0%増加を見込んでおります。

以上の結果、2020 年 6 月期の販売費および一般管理費は 890 百万円（前期比 22.9%増）、売上の伸び、売上総利益率の改善により販売管理費の増加を吸収し営業利益は 405 百万円（前期比 61.6%増）を見込んでおります。

（営業外収益、営業外費用、経常利益）

営業外損益については、過去実績に基づいた為替差損益や上場関連費用の営業外費用に 7 百万円を加え、経常利益は 398 百万円（前期比 61.0%増）を見込んでおります。

（特別利益、特別損失、当期純利益）

特別損益は見込んでおりません。法人税等は税務上の調整項目を加味した課税所得に法定実効税率を乗じて計上しております。

以上の結果、2020 年 6 月期の当期純利益は 330 百万円（前期比 49.6%増）を見込んでおります。

【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上



2020年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2020年7月15日

上場会社名 株式会社アイキューブシステムズ 上場取引所 東
 コード番号 4495 URL <http://www.i3-systems.com>
 代表者 (役職名)代表取締役社長兼CEO (氏名)佐々木 勉
 問合せ先責任者 (役職名)取締役兼CFO (氏名)有森 正和 (TEL)092(552)4358
 四半期報告書提出予定日 — 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年6月期第3四半期の業績 (2019年7月1日～2020年3月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年6月期第3四半期	1,198	—	364	—	357	—	311	—
2019年6月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年6月期第3四半期	62.23	—
2019年6月期第3四半期	—	—

- (注) 1. 当社は、2019年6月期第3四半期については、四半期財務報告を作成していません。2019年6月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率並びに2020年6月期第3四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。
2. 当社は、2019年11月15日開催の取締役会議決により、2019年2月20日付で株式1株につき10株の株式消滅を行いました。当該株式消滅の完了と仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在するものの、当社株式は2020年6月期第3四半期においては非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年6月期第3四半期	1,200	698	58.2
2019年6月期	1,083	386	35.7

(参考) 自己資本 2020年6月期第3四半期 698百万円 2019年6月期 386百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年6月期	—	0.00	—	—	—
2020年6月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年6月期の業績予想（2019年7月1日～2020年6月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,641	17.3	405	61.6	398	61.0	330	49.6	65.99

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2020年6月期3Q	5,011,350株	2019年6月期	3,450,000株
2020年6月期3Q	一株	2019年6月期	一株
2020年6月期3Q	5,011,350株	2019年6月期3Q	一株

- ② 期末自己株式数

- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

- (注) 1. 2019年12月20日付で普通株式1株を10株に分割しています。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しています。
2. 当社は、2019年6月期第3四半期については、四半期連結財務諸表を作成していないため、2019年6月期第3四半期の期中平均株式数を記載しておりません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間においては、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大に際し、各国は感染拡大を断ち切るべく国を挙げて対策を実施しているものの、まだその効果は見え、歴史的な感染症に匹敵するとも言われ始めております。この未曾有の事態の中で、世界経済の景況悪化は深刻なものとなり、その影響の規模や景気回復の目処は現時点では不透明と言わざるを得ません。

我が国においては、政府は緊急事態宣言発令を視野に入れ、医療面や経済面等の多面的な対応を始めているものの、実態としては国内外での生産及び消費の落ち込みや、各国間での移動制限に伴う企業活動の収縮など、経済に深刻な影響が発生しています。それに伴い、企業の業績は先行きが見通せず、予測がつきにくい状況となっています。

一方、情報通信市場においては、我が国においても第5世代移動通信システム（5G）の開始に伴い、時間・場所・規模の制約を超えた経済活動が更に可能となり、誰もが情報通信技術（ICT）による利便性を享受できる環境の整備が進められています。

このような市場環境の中、当社は2010年度から提供を開始した、モバイル端末管理サービス「CLOMO MDM」及びモバイル端末向けアプリサービス「CLOMO SECURED APPs」を事業の主軸として、クラウドを利用したB to BのSaaS事業をサブスクリプションの形で提供しております。これまで、主に携帯電話販売会社や携帯電話販売代理店への販売網の営業強化を進め、導入社数2,420社(2019年3月31日比36.9%増)に達しております。

また、当第3四半期累計期間は、人材採用や複数の開発協力会社へ開発業務の一部委託を進めるなど、開発体制の強化を継続して進めております。営業面においては、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により、モバイル端末の生産や調達が遅れていることや、一部の販売代理店がテレワークに移行したり、営業活動を自粛したことにより、新規の営業開拓などが停滞しているケースがあります。ただ総じて、「働き方改革」や「テレワーク・リモートワーク」の必要性が高まっていることから、当社サービスの導入に向けて企業からの問い合わせが増えることが予想され、そのニーズに応え新規の顧客獲得を大きく伸ばすべく、特に携帯電話販売会社との協力強化を継続しています。

以上の結果、当第3四半期累計期間の経営成績は、売上高1,198,875千円、営業利益364,546千円、経常利益357,402千円、四半期純利益311,871千円となりました。

なお、当社の事業はライセンス販売事業のみの単一事業であるため、セグメントごとの記載を省略しておりますが、サービス別の内訳は次のとおりであります。

CLOMO MDM	売上高	987,986千円
SECURED APPs	売上高	171,387千円
その他	売上高	39,501千円

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における財政状態については次のとおりであります。

① 資産

総資産は1,200,335千円となり、前事業年度末に比べ117,213千円の増加となりました。これは主に、現金及び預金が16,928千円、ソフトウェアが15,256千円、ソフトウェア仮勘定が55,102千円増加したことによるものです。

② 負債

負債は501,987千円となり、前事業年度末に比べ194,658千円の減少となりました。これは主に、未払法人税等が42,546千円増加し、1年内返済予定の長期借入金が40,224千円、前受収益が42,188千円、長期借入金が40,152千円、役員退職慰労引当金が60,768千円減少したことによるものです。

③ 純資産

純資産は698,348千円となり、前事業年度末に比べ311,871千円の増加となりました。これは、四半期純利益の計上により、利益剰余金が増加したことによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年6月期の業績につきましては、売上高1,641百万円(前期比17.3%増)、営業利益405百万円(前期比61.6%増)、経常利益398百万円(前期比61.0%増)、当期純利益330百万円(前期比49.6%増)を見込んでおります。

なお、当業績予想数値は、2020年5月に策定しており、2020年4月までは実績値を採用しております。詳細は、本日開示いたしました「東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご覧ください。

上記予想などの将来予測情報は、現在入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後の様々な要因により予想数値と異なる場合がございます。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年6月30日)	当第3四半期会計期間 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	715,659	732,588
売掛金	100,950	106,453
その他	27,915	48,022
流動資産合計	844,525	887,064
固定資産		
有形固定資産	33,629	40,033
無形固定資産		
ソフトウェア	20,871	36,127
ソフトウェア仮勘定	61,369	116,471
無形固定資産合計	82,240	152,598
投資その他の資産		
繰延税金資産	82,819	82,819
その他	39,906	37,818
投資その他の資産合計	122,726	120,638
固定資産合計	238,596	313,270
資産合計	1,083,121	1,200,335

株式会社アイキューブシステムズ（4495）2020年6月期第3四半期決算短信

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年6月30日)	当第3四半期会計期間 (2020年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	38,245	29,875
未払金	70,698	53,789
1年内返済予定の長期借入金	40,224	—
未払法人税等	397	42,943
前受収益	342,831	300,643
賞与引当金	45,000	22,173
その他	45,929	38,495
流動負債合計	583,327	487,921
固定負債		
長期借入金	40,152	—
長期前受収益	12,397	14,065
役員退職慰労引当金	60,768	—
固定負債合計	113,318	14,065
負債合計	696,645	501,987
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
利益剰余金	286,476	598,348
株主資本合計	386,476	698,348
純資産合計	386,476	698,348
負債純資産合計	1,083,121	1,200,335

（2）四半期損益計算書

第3四半期累計期間

（単位：千円）

	当第3四半期累計期間 （自 2019年7月1日 至 2020年3月31日）
売上高	1,198,875
売上原価	232,158
売上総利益	966,716
販売費及び一般管理費	602,169
営業利益	364,546
営業外収益	
受取利息	41
雑収入	223
営業外収益合計	265
営業外費用	
支払利息	80
為替差損	231
上場関連費用	6,561
雑損失	535
営業外費用合計	7,409
経常利益	357,402
特別損失	
固定資産除却損	2,605
特別損失合計	2,605
税引前四半期純利益	354,797
法人税等	42,925
四半期純利益	311,871

（3）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。